

# 道草



4月の道草：初夏の野草石付き仕立て

## 後部左：三つ手岩傘 [Spiraea blumei]

バラ科シモツケ属

<分布>本州（近畿地方以西）、四国、九州、朝鮮半島、中国

近畿地方以西の山地や海岸の岩場に自生する高さ1-2mの落葉低木。

和名は岩場に生え傘のような花序をつけることによる。

花期は5月。若い枝は褐色で、普通無毛。古くなるとたてに裂けて剥がれる。

葉は互生、葉身は長さ2~4cmの菱形状卵形~広倒卵形。先端は丸く、基部は広い楔形。

縁の上半分には不ぞろいの鋸歯がある。ときに3~5裂するものがある。

3~5裂するものが園芸用にミツデイワガサの名で出回っている。

枝先に2~4cmの散房花序を作り、直径約7mmの白色の花を20~40個つける。

日当たりのよい山地のや海岸の岩場などに自生する。

石灰岩地や蛇紋岩地でよく生育する。挿し芽で簡単につく。

日光に良く当てて栽培する。

## 後部右及び左下

：忍 [Davallia mariesii]

シノブ科シノブ属

<分布>本州、四国、九州、沖縄、中国 日本原産

山地の比較的乾いた太い樹木や岩場に着生している羊歯の仲間。

根茎の若い部分は淡褐~灰褐色の鱗片を密生し、まばらに葉をつける。

雨が降らない限り非常に乾燥する場所に生育しているが、枯れることはない。

葉の一部が枯れても太い根茎から次々新芽が展開し、水切れに耐え忍ぶ。

夏の風物詩として、古くから親しまれている「しのぶ玉」は、木炭やへゴなどを芯に

水苔をくるんで、ボール状やタペストリー状にして、このシノブの根茎を巻き付けたもの。

## 手前左：岩沙参 [Adenophora takedae]

キキョウ科ツリガネニンジン属 日本原産

<分布>本州、関東地方西部から中部地方東南部

沢沿いや山地の湿り気のある岩礫地に生える多年草。茎は細く弓なりになり、長さ30~70cmで垂れ下がる。

葉は披針形から広線形で茎に互生して付き、広線形または按針形で長さ7~15cm。

9月から10月ごろ、茎頂に総状花序をだし、花は青紫色で長さ2~5cmの細い花柄の先に複数つり下がって咲く。

花柱は花冠から突き出ない。栽培は水切れに注意。

## 中央及び手前右

：斑入り姫擬宝珠

[*Hosta longipes* (Franch. et Savat.) Matsum. var. *gracillima* (F. Maek.) N. Fujita ]

ユリ科ギボウシ属

<分布>日本全土 日本原産

擬宝珠はもともと日本の山野に自生している植物で、暑さ寒さに強く、日本の気候でどこでも良く育ち、

病虫害も少なく、半日陰の庭植えに向く。落葉樹の下などが理想的。

タテモノノ東側の午前中だけ日の当たる所でも良い。

育て易く、植えやすいことから園芸用に普及。

斑入り姫擬宝珠は中でも葉が小型。蕾の形が「擬宝珠」に似ていることから銘々。